

都市再生整備計画(第2回変更)

だい きしん たまな えき たまな おんせん たかせ
第2期新玉名駅・玉名温泉・高瀬地区

熊本県 たまな
玉名市

平成25年12月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	熊本県	市町村名	たまご 玉名市	地区名	たいしんたまご・たまごたまご・あんせんたかせ 第2期新玉名駅・玉名温泉・高瀬地区	面積	580 ha
-------	-----	------	------------	-----	---	----	--------

計画期間	平成 22 年度 ~ 平成 26 年度	交付期間	平成 22 年度 ~ 平成 26 年度
------	---------------------	------	---------------------

<p>目標</p> <p>県北広域交流拠点である新玉名駅と中心市街地の連携による観光交流</p> <p>目標1 「玉名温泉地区」と「高瀬地区」、「新玉名駅地区」の回遊性を高め観光入込客の増加を目指す。</p> <p>目標2 新幹線新駅利用者の利便性確保のための施設整備と観光客利用促進のためのPR。</p> <p>目標3 観光客の誘導や滞留を促進し、誰もが安全に安心して訪れることのできるまちづくりを目指す。</p>
<p>目標設定の根拠</p> <p>まちづくりの経緯及び現況</p> <ul style="list-style-type: none"> 本市の中心市街地は古くから栄えた玉名温泉地区、中世から河港貿易都市として栄えた高瀬地区、明治中期開業した玉名駅を中心とする玉名駅地区を核とし、これらを結ぶ沿道にまちが形成されている。 当地区は開湯以来1300年の伝統を有する観光地で、年間宿泊客数は平成8年をピークに近年は、減少傾向にあるのが現状であります。この地区は道路が狭いなど観光上未整備な地区であったが、平成17年度から第1期まちづくり交付金事業により、街路や散策路、排水路等の整備を行い、観光地としての魅力あるまちづくりを進めています。又、新幹線開業が目前に迫っており、新玉名駅周辺の利便性の確保や観光交流の玄関口としての施設整備が段階的に進むと共に新駅位置での認知が進みつつある。 当地区は本市の中心商業地であるが、建物の老朽化や郊外店の進出等で衰退している状況である。この地区は眼鏡橋や米蔵、石垣など歴史的資産が残り、例年実施しているしょうぶ祭りには、多くの観光客が訪れており、これに絡めてNPO法人高瀬蔵を活かしたまちづくりが実施されている。ただ、これらの結びつきが弱く、互いの相乗効果が期待できない状況であったが、近年、街路事業の整備が始まっており、「玉名温泉地区」と「高瀬地区」、「新玉名駅地区」の回遊性を高め観光入込客の増加を目指す。 庁内関係部署や学識経験者を含む外部委員会により、第1期事業の事後評価を行い、今後さらなる観光入込客の集客を図るため、周辺地域及び県外へのまちの魅力のPR強化を図り、新玉名駅周辺から温泉街、中心市街地を一体的にとらえ、これまでの事業の継続と戦略的な回遊性の実現を目標とすることで継続的なまちづくり活動を展開する。 <p>課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光客を日帰りから宿泊へと繋げ、滞在時間の延長と観光消費の増加を図るため、地区内のインフラ整備や安全な空間の確保を行う必要がある。 新玉名駅や周辺整備の継続や新玉名駅から温泉街、中心市街地への誘導のための方策を行う必要がある。 事業整備に伴い観光拠点が広域化することによる観光客への対応を図るため 観光案内の更なる資質向上や人的対応力の強化が必要である。 <p>将来ビジョン(中長期)</p> <ul style="list-style-type: none"> 観光回遊ルートの形成による来街客の増加で、温泉街と既存市街地の活性化を図る。 玉名市の将来像である「人と自然がひびうきあう 県北の都 玉名」を実現するために、交流拠点づくり、観光拠点づくりを推進する。

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
観光入込客数	人/年	熊本県観光統計による玉名市への観光入込客数	新玉名駅から高瀬地区を経由して玉名温泉地区への新たな観光ルートが確保されることで、観光客の増加が見込まれることから指標とし、1割増を目指す。	1,574,407	20	1,731,000	26
新幹線通勤、通学者数	人/年	新玉名駅利用の通勤、通学者数	新幹線開業に伴い、福岡方面の時間距離が短縮し、玉名市から通勤、通学が可能となるため、人口減少の歯止めや、玉名市外からの定住化も見込める。	—	21	70	26
観光案内人(玉名人検定)合格者数	人/年	玉名市で行う観光案内人(玉名人検定)合格者数	観光案内人(玉名人検定)の合格者を増やし、親切で暖かく、おもてなしの気持ちを持って、観光案内等の充実を図る。	—	21	100	26

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1(観光回遊ルートの整備)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「新玉名駅地区」から歴史的資産に富んだ「高瀬地区」を経由して「玉名温泉地区」へ誘導するため、回遊ルートとなる公共ゾーンの快適なアクセス道路の整備や排水路の整備を図り、地区住民や来訪者の安全な通行を確保する。 ・玉名温泉地区を起点に玉名バイパスと国道208号線への道路網を整備することにより、観光宿泊者の利便性を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道路(基幹事業:立願寺横町線外1線、市道田中町新町線、境川山田線) ・高質空間形成施設(基幹事業 / 立願寺横町線街路灯及び街路樹) ・地域創造支援事業(提案:排水路整備事業) ・地域創造支援事業(提案:照明及び標識設置) ・地域創造支援事業(提案:国道208号線案内標識設置)
<p>整備方針2(新駅周辺の利便性確保と新駅PR活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新駅周辺について、利用者の利便性確保のために駐車場の整備を行うとともに、快適性とゆとりをもった環境を形成するために公園整備を行う。 ・新駅開業前の交付期間中については、それら公共施設の活用方策として、新駅を新たな観光の玄関口とするPRを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公園(基幹:新玉名駅前公園) ・地域生活基盤施設(基幹:新玉名駅前駐車場) ・東西道路(関連事業、県)、道大坊迫間線 新玉名停車場
<p>整備方針3(観光交流促進のためのまちづくり活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新玉名駅から観光の核となる「玉名温泉地区」と歴史的観光資源に富んだ「高瀬地区」を観光ルートとするため、イベント等を開催するとともに、地域の歴史的な資産や観光地などを案内する観光案内人の育成を図る。 ・しょうぶ祭りや高瀬蔵を活用した、歴史・文化・観光物産など中心市街地の核となるよう多角的な活用を図り、商店街の活性化を目指す。 ・まちづくり事業の目標が達成されたのか効果発現要因の整理を行い、事業の実施によって得られた知見を活かし、今後のまちづくりに関する方策を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・裏川整備 ・事業効果分析
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事業終了後の継続的なまちづくり活動 事業終了後も、形成された観光回遊ルートをより充実するため、NPO法人高瀬蔵などを活用して継続的にまちづくり活動を展開する。 ○街なみ形成の誘導を図るための方策 玉名温泉地区については、地域づくり団体と連携し、温泉街の雰囲気づくりや景観形成のための検討を行う。高瀬地区についても、地域づくり団体と連携し、歴史的まちなみの雰囲気づくりを目指したまちなみ形成のための検討を行う。 ○温泉街宿泊者における駅利用者の増加 玉名温泉への観光客を日帰りから宿泊へと繋げ、滞在時間の延長と観光消費額の増加を図る。 	

第2期新玉名駅・玉名温泉・高瀬地区(熊本県玉名市)

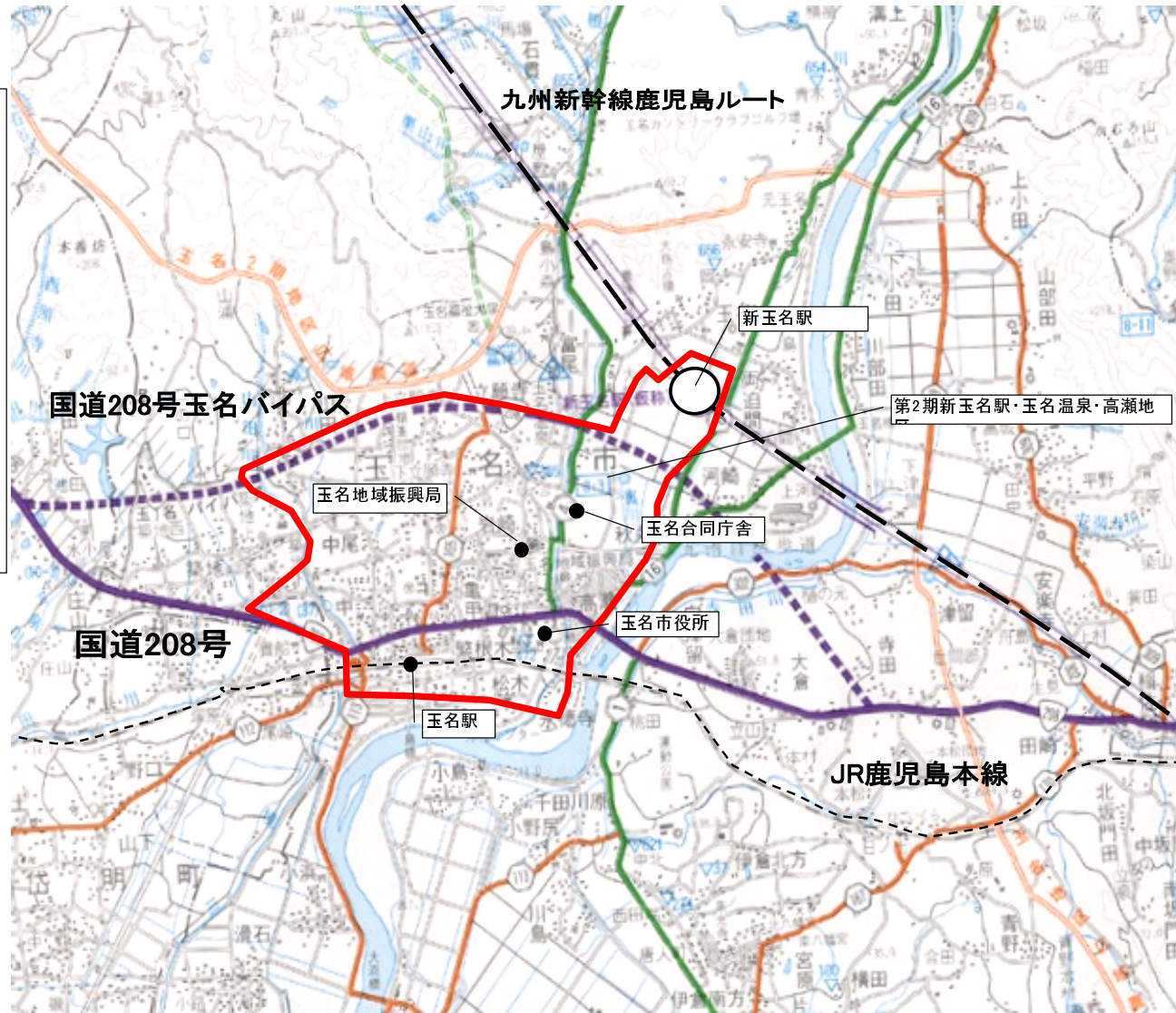
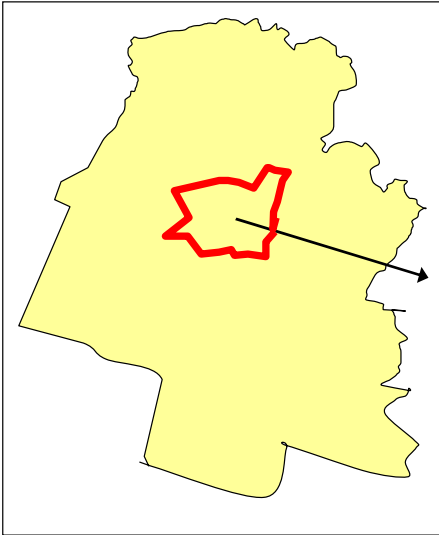
面積

580 ha

区域

玉名市立願寺、岩崎、高瀬、河崎、玉名、両迫間の一部、山田、中

<玉名市全域>



1,000m